

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	芸術:音楽 I (選択必修)	単位数 2 単位	履修年次 1 年次
目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。		
使用教材	教科書「教育芸術社 MOUSA1」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり、及び音楽の多様性の基礎について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための基礎的な技能を身に付けている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりすることができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしてしようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、普段の授業態度(課題への取り組み・提出物など)、実技試験、ペーパーテストなどにより総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・紀南高等学校の校歌 ・教科書記載の斉唱曲 【器楽・創作】 ・ボディパーカッション 【楽典】 ・音部記号 ・音符と休符	・行事ごとに必ず歌う校歌を覚える。またその背景や学校の歴史にも触れ知識を深める。 ・グループでそれぞれカップのパフォーマンスを考えて発表したり、曲に合わせた表現を工夫したりして、表現意図をもって創作に取り組む力を身に付ける。 ・音符記号の正しい書き方や音符と休符の種類、その意味について理解する。	
2	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・ドイツ語の歌 ・教科書記載の斉唱曲 ・合唱曲 【楽典・音楽史】 ・基本的な楽語(変化記号、強弱記号、奏法上の記号、速度の変化を表す記号) ・反復記号 ・楽器や作曲家の歴史、代表曲	・ドイツリートを原語のまま歌う力や、発音や日本語とは異なるイントネーションについて理解する力を身に付ける。 ・各声部ごとにパート練習に取り組み、その後合わせて曲を仕上げる力を身に付ける。また、自分のパートを責任を持って歌うことに加え、他のパートを聴き調和させながら、みんなで1つの曲を仕上げる喜びを味わう。 ・様々な楽語や反復記号の意味を理解する。また、楽器や作曲家の歴史、代表曲について理解を深める。	
3	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・日本歌曲 ・オペラやミュージカル曲 ・教科書記載の斉唱曲 【鑑賞】 ・オペラやミュージカルの鑑賞 【楽典】 ・音名	・我が国で長く歌われ親しまれてきた歌をとおして、日本の自然や四季、文化や日本語のもつ美しさを味わうとともに、我が国の音楽文化を受け継いでいく態度を育てる。 ・オペラ、ミュージカルの鑑賞をとおして、舞台音楽について理解する。またそこで用いられている曲の歌唱をとおして、オペラ、ミュージカルの理解を深める。 ・日本語・ドイツ語・英語等の音名を、派生音の読み方も含めて理解する。	
学習上の留意点	教科書を使用して、総合的に音楽について学習する。何事にも一生懸命、取り組む。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	芸術:音楽Ⅱ(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。		
使用教材	教科書「教育芸術社 MOUSA2」		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり、及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。	個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができている。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、普段の授業態度(課題への取り組み・提出物など)、実技試験、ペーパーテストなどにより総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・イタリア語の歌 ・教科書記載の斉唱曲 【楽典】 ・1年次の復習 ・音程(2度、3度、6度、7度)	・イタリア語の歌を原語のまま歌うことをとおして、発音や日本語とは異なるイントネーションを意識し、歌唱に生かす力を身に付ける。 ・音部記号や音符と休符、楽語、反復記号、音名について理解する。また、音程の学習への導入として、音符に変化記号がついた際の鍵盤の動き方について理解する。 ・音程の概念の理解や度数の教え方と種類について理解する。	
2	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・合唱曲 ・日本歌曲 ・教科書記載の斉唱曲 【楽典】 ・音程(4度、5度) ・音階と調(長音階)	・各声部ごとにパート練習を行い、その後合わせて曲を仕上げることをとおして、他のパートを聴き、調和させ美しいハーモニーを響かせる力を身に付ける。また、みんなで1つの曲を仕上げる喜びを味わう。 ・我が国で長く歌われ親しまれてきた歌に触れることで、日本の自然や四季、文化や日本語のもつ美しさを味わうとともに、我が国の音楽文化を受け継いでいく意志を持つ。 ・長音階の音階の規則やその書き方について理解し、その音階の調が何であるか、日本語、ドイツ語、英語それぞれで理解する。	
3	【歌唱】 ・基本的な発声方法練習 ・フランス語の歌 ・オペラ、ミュージカルの曲より ・教科書記載の斉唱曲 【鑑賞】 ・オペラ、ミュージカルの鑑賞 【楽典】 ・音階と調(長音階)	・フランス語の歌を原語のまま歌うことをとおして、発音や日本語とは異なるイントネーションについて理解する。 ・オペラ、ミュージカルの鑑賞を行い、舞台音楽について理解する。また、そこで用いられている曲の歌唱を行い、より深くオペラ、ミュージカルを理解する。 ・長音階の音階の規則やその書き方、またその音階の調が何であるか、日本語、ドイツ語、英語それぞれで理解する。	
学習上の留意点	・音楽Ⅰの履修が必要となる。 ・教科書を使用して、総合的に音楽について学習する。何事にも一生懸命、取り組む。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	芸術:実技音楽(選択)	単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、声楽や器楽の発展的な演奏技術を身に付け、個性豊かに表現する資質・能力を育成する。		
使用教材	プリント教材		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり、及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。	表現意図をもって個性豊かに音楽表現を創意工夫したり、音楽を形づくっている要素を踏まえて音楽を評価しながら、そのよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができる。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、普段の授業態度(課題への取り組み・提出物など)、実技試験、ペーパーテストなどにより総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュ(リズム) ・個人実技・集団実技のレッスン ・グループアンサンブル 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を理解し表現するための練習をとおして、楽器演奏のための発展的な技術を身に付ける。 ・鍵盤楽器、吹奏楽器を使ったグループアンサンブルを行い、発展的な技術を身に付ける。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・グループアンサンブル ・個人実技・集団実技のレッスン ・卒業制作発表の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に応じた実技レベルの習得をすることによって、発展的な技術を身に付ける。 ・アンサンブルによって、みんなでひとつの曲を完成させる喜びや個人だけでは表現できない音楽のすばらしさを理解する。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に引き続き、卒業制作発表の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期に行われる卒業制作発表に向け、さらに発展的な技術を身に付ける。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと楽器演奏に取り組むことができる講座である。 ・年度末には卒業演奏を行う。 		